

俳句の会「芦火」

☆柑蘆同人誌「芦火」第705号（十一月号）表紙

- ・冬の季語：「短日」（たんじつ）（三冬・時候）
- ・来月号（十二月号）の兼題です。



・昼と夜の時間が等しくなるのが「秋分」であり、夜が最も長くなるのが「冬至」ですが、ちょうどこの「ど真ん中」が「立冬」です。つまり、冬になったということは、どんどん日が短くなっていくということです。こんな時間でもう暗くなるんだ、という感慨が「短日」（たんじつ）です。

因みに、「立春」に向かって）日が伸びてきたなあ、という晩冬の感慨は「日脚伸ぶ」（ひあしのぶ）という季語で言い表します。

<季語「短日」を含んだ有名俳人の句（7句）>

- ・短日やされどあかるき水の上／久保田万太郎
- ・短日や盗化粧のタイピスト／日野草城
- ・短日や岬のあざみ色うすく／鈴木真砂女
- ・短日の望遠鏡の中の恋／寺山修司
- ・ガラス戸に額を当てて短き日／深見けん二
- ・短日の崖にぶつかる鳥獣／宇多喜代子
- ・短日の鳥居の下の蕈を摘む／岸本尚毅

☆前月出句の中の高得点句（5点以上）

- ・704号に出句された17名の119句のなかから互選で5点以上獲得した句5句です。
  - ・廃線に残る慰霊碑野菊咲く／緑地
  - ・峡の田や鎌で稲刈る老夫婦／恵吾
  - ・重陽の重なり愛でる白寿かな／穂心
  - ・秋立つや鏡の前の白髪眉／碧亥
  - ・葛城の古道ひたすら猫じゃらし／恵吾

\*\*\*\*\*

<俳句の会「芦火」概要>

- ・会員は柑芦会会員
- ・現在の会員は大学3期卒から25期卒の18名
- ・昭和38年（1963年）結成・・・約60年の歴史
- ・会員の作句は通信俳句誌「柑蘆同人誌・芦火」に掲載され毎月各人に配付
- ・創刊以降毎月発刊。令和4年（2022年）6月に第700号発刊。
- ・50号ごとに句誌を発刊。令和4年5月に「芦火第14号句集」発刊
- ・創刊時からの延べ会員数、72名（高商32名、高商教授1名、大学39名）

<編集者・コンタクト先&会費、他>

- ・編集者：穂永 千秋（大学17期）（今月より編集者になりました）  
メールアドレス：[suishin2010@dream.ocn.ne.jp](mailto:suishin2010@dream.ocn.ne.jp)／携帯：090-9887-2513
- ・その他のコンタクト先：
  - ・山下 勝（大学14期）  
（先月迄10年の長きに亘り編集者を務めて頂きました。ご苦労様でした。）  
メールアドレス：[yama723@nifty.com](mailto:yama723@nifty.com)／携帯：090-1349-6727
  - ・平林 義康（大学20期）  
メールアドレス：[hirabayashi9497@yahoo.co.jp](mailto:hirabayashi9497@yahoo.co.jp)／携帯：090-8525-7293
- ・会費：年会費1万円

以上